

奥秩父 / 東沢・東のナメ沢

遡行日：08年6月1日

メンバー：三井（L / 記録）、野澤

「ぶな」の中島さんから東のナメ沢の大滝に異変があった、との情報があったのだけれどもまさかこれほどとは...

.....

東沢の吊橋を渡り、東沢に足を踏み入れるとすぐにその異変の現象は現れていた。

河原に一抱えもある流木が折り重なって散乱しているのだ。「何じゃこれは...」

東沢に沿って登山道を辿って行くが河原のあちらこちらに流木の塊りがあり、更に沢沿いの斜面の一部が崩れ土石の堆積しているところもあって酷い荒れようだ。

以前会報にも書いた事だがここ何年か沢の様子が変わってきているように思う。沢が荒れてきているのだ。

昔は美溪、秀溪で知られた沢が再訪してみると流木や土石で埋まって見る影も無くなって落胆させられる事も少なからずある。

地球温暖化とか環境悪化などがもたらす影響をまともに沢が受けているのか。この影響の行き着く先を考えれば暗澹たる思いしかない。程なく東のナメ沢の出合いに到着。スッキリした白いスラブ壁の大滝が目飛び込んでくる。「エーッ、これがあの大滝?...」滝の様子が違う。

以前はたしか樹林の一部で視界が遮られて大滝の全容は望めなかったはずだが2段目から上の右岸側の草付が樹林帯の一部も含めてまるで剥ぎ取ったように無くなっているのですっきりと見渡せる。

大滝も変わったが出合いの周辺の様子も以前のようなのではない。碎石のような角張った石が堆積して何か採石場にいるような感じ、とても言えばいいか。しばし呆然。

が、しかし、驚いてばかりもいられない。我々はこの沢に登りに来ているのだ。ハーネスを着け、ガチャ類をぶらさげるとごちゃごちゃし

た気分はすっ飛ばす。

セオリー通り、1段目は水流の右からノーザイルで取り付き、2段目からフラットソールに履き替え、ロープを着ける。

乾いたスラブにフラットソールはぴったりと吸い付き快適な登攀となる。広大なスラブ壁の中に身を置いて無心に岩を攀じる。天気はいいし、もー言う事はないね。(今回はつい沢用の40mロープを持ってきてしまったがここは50mロープにすべきだった。)

右岸の草付きが剥ぎ取られた為か以前よりスッキリしたルート取りが出来、登り易くなっているのではないだろうか。

野澤君とツルベで6ピッチ、最終の落ち口を抜けるピッチでルートの判断ミスしてしまい手間取ってしまったが何とか落ち口に上がる。いつもの又メった、クズクズの滝登りと違って快適な登攀だった。

大休止後再度沢靴に履き替え、稜線を目指す。大滝上の2本の滝を越えたところでまた絶句の状況。左岸から「一の沢」が出合うのだが、ここは以前はナメ状の沢だったと思うがそれが鶏冠尾根の稜線下から無残にえぐれたガレ沢と化している。余りの惨状に言葉を失う。

一の沢が崩壊し、ここから流れ落ちた土石流が大滝の草付を削ぎ落とし、出合いやその下流に大量の流木や土石を堆積させたのだろう。北極の氷河が崩れ落ちるシーンが頭の中でオーバーラップする。

目を背けるようにその場を後に先に進むが、これまでよりは大きなダメージを受けていないようだが、倒木やら崩壊した箇所はやはり見られる。

遡行自体は取り立ててどうという事もなく、2時間ほどで源頭。咲き始めた石楠花を僅かに漕ぐと鶏冠尾根にでる。

昔は鶏冠尾根の下降は迷い易くて苦労したものだが、今はテープなど目印があちこちに付いていて明瞭なルートになった。

暗くなる前に駐車場に戻ることが出来て無事終了。

.....

僕としては十数年振りの「東のナメ沢」だったが、沢の変容振りに驚く他はなかった。恐らく、東沢のほかの支流も多かれ少なかれ同じような状況になっているだろうし、他の山域も同様だろう。

今年、是非行きたいと考えている秀溪が幾つかある。その谷は果たしてどんな状況なんだろうか。昔のままであってほしい、と願うばかりだ。